

『琉球産物志』写本の書誌的調査

高津 孝

Bibliography of *Ryukyu Sanbutsushi* Manuscripts

TAKATSU Takashi

鹿児島大学法文学部

Faculty of Law, Economics and Humanities, Kagoshima University

要旨

田村藍水『琉球産物志』の現存写本19点について書誌的調査を行い、写本が、植物図の収録点数、収録順序を異にする、15巻本系統と16巻本系統の2系統に分類できることが判明した。

江戸時代、奄美の植生を理解するための最も重要な資料は、『琉球産物志』である。『琉球産物志』は江戸時代に出版されることはなかった。したがって、現在残されているテキストはすべて写本である。国文学研究資料館の提供する「古典籍総合目録データベース」を基本として他の資料を参考にすると、残存するテキストで確認可能なものは以下の通りである。

1. 国立国会図書館・伊藤文庫¹ (巻1-3、2冊)
2. 国立国会図書館・伊藤文庫 (巻1-7、絵図なし、2冊)
3. 国立国会図書館・白井文庫² (巻1-13・付録、明治写、6冊)
4. 国立公文書館・内閣文庫³ (巻1-13、付録3巻、5冊)
5. 東京国立博物館A (15巻、6冊)
6. 東京国立博物館B (現在、九州国立博物館に移管) (15巻、6冊)
7. 鹿児島県立図書館 (巻15、1冊)
8. 西尾市岩瀬文庫⁴ (巻1-13、付録3巻、13冊)
9. 武田科学振興財団・杏雨書屋⁵・杏1652 (巻7、1冊マイクロ)

¹ 幕末・明治の本草学者伊藤圭介(1803-1901)収集の本草学関係書約2,000冊。昭和19年に購入されたもの。国立国会図書館ホームページによる。

² 植物学者白井光太郎(1863-1932)収集の本草学関係書約6,000冊。昭和15年～17年に購入されたもの。国立国会図書館ホームページによる。

³ 1884年に創立された官庁図書館。1873年太政官所属の図書掛に始まり、創立時は太政官文庫と称し、1885年内閣制度発足と同時に内閣文庫と改称。各官庁の図書を収集、江戸幕府の紅葉山文庫、昌平坂学問所、和学講談所などの蔵書を引き継いでいる。『ブリタニカ国際大百科事典』電子版による。

⁴ 明治41年に西尾市須田町の実業家・岩瀬弥助が創設した私立図書館。戦後に西尾市の施設となり、平成19年に登録博物館。重要文化財をふくむ古典籍から近代の実用書まで蔵書8万冊余り。西尾市岩瀬文庫ホームページによる。

⁵ 五代武田長兵衛(武田和敬翁)が、1923年9月、関東大震災により東京で貴重な典籍が灰燼に帰したことを大いに痛嘆し、日本・中国の本草医書の散逸を防ぐことを目的とし、早川佐七蔵書、藤浪剛一蔵書

10. 武田科学振興財団・杏雨書屋・杏 3281 (巻 1-15、東博蔵本写、5 冊マイクロ)
11. 武田科学振興財団・杏雨書屋・杏 6927 (巻 1-16、5 冊マイクロ)
12. 武田科学振興財団・杏雨書屋・杏 6678 (巻 1-13、4 冊マイクロ)
13. 武田科学振興財団・杏雨書屋・貴 538 (巻 1-13、付録 3 巻、3 冊マイクロ)
14. 武田科学振興財団・杏雨書屋・貴 539 (巻 4-7、2 冊マイクロ)
15. 武田科学振興財団・杏雨書屋・貴 616 (巻 1-16、4 冊マイクロ)
16. 大東急記念文庫⁶ (巻 1-15、15 冊)
17. 無窮会神習文庫⁷ (巻 1-5、2 冊)
18. 国文学研究資料館・祭魚洞文庫旧蔵水産史料⁸ (巻 1-8、8 冊)
19. 東京大学・駒場図書館 (巻 1-15、東博蔵本写、15 冊)⁹

『琉球産物志』現存写本 19 点の内、東京国立博物館所蔵 2 点、東京大学・駒場図書館所蔵 1 点を除き、16 点については、所蔵機関を訪問し、調査を行った。また、東京国立博物館所蔵 2 点の内、1 点は『江戸後期・諸国産物帳集成・第 18 巻 [薩摩・琉球]』(科学書院、2004 年)に影印出版されており、内容を把握することが可能であり、東京大学・駒場図書館所蔵 1 点については、CiNii に簡単な書誌的記述が公開されている。以上の調査の結果、『琉球産物志』現存写本は 2 つの系統に分類できることが判明した。

第一系統：『江戸後期・諸国産物帳集成・第 18 巻 [薩摩・琉球]』に影印された東京国立博物館所蔵本を代表とするもので、巻頭に林懋「琉球産物志叙」(明和 8 年)、岡田以関「琉球産物志序」(明和 8 年)、田村藍水(坂上登)「琉球産物志自序」(明和 7 年)、「琉球産物志凡例」、「琉球産物志目録」を有し、本文 15 巻、付録 3 巻で構成される。1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 12, 13, 14, 17, 18, 19 がこれに相当する。

ただし、1 の国立国会図書館・伊藤文庫(巻 1-3、2 冊)の第 1 冊乾は、非常に精密な植物図を有し、伊藤篤太郎によって「琉球産物志ノ原本」と記載されたものである。また、17 の無窮会神習文庫(巻 1-5、2 冊)も同じく非常に精密な植物図を有する写本である。

第二系統は、15 の武田科学振興財団・杏雨書屋・貴 616 (巻 1-16、4 冊マイクロ)を代表とするもので、巻頭に、第一系統とは異なる林懋「琉球産物志序」(明和 8 年)を有し、本文は 16 巻のものである。第一系統の写本とは、植物図の収録点数、収録順序を異にする。11, 15, 16 がそれにあたる。

などを私財をもって購入、後に「杏雨書屋」と呼ばれる文庫を形成。杏雨書屋は六代武田長兵衛氏に引き継がれ、1977 年武田科学振興財団へ寄付、1978 年「杏雨書屋」の名称を継承し、本草医書を中心とする図書資料館として開館。杏雨書屋ホームページによる。

⁶ 大東急記念文庫は、昭和 24 年(1949)に五島慶太によって創立された、日本・東洋の古典籍約 3 万点を所蔵する、研究者を対象としたアーカイブ。五島美術館ホームページによる。

⁷ 無窮会図書館は、東京都町田市にある財団法人で、1915 年に平沼騏一郎によって創設された。井上頼圀の神道・国学関係の旧蔵書を購入し増補を重ねた(神習(かんならい)文庫)をはじめ、和漢の貴重な書籍が所蔵されている。百科事典マイペディアによる。

⁸ 祭魚洞文庫は渋沢敬三氏によって建てられた研究所で、敬三氏の号に由来する。全国にわたる水産関係の収集史料で、商業関係、官庁書類、編纂物、団体規約等を含む。国文学研究資料館ホームページによる。

⁹ 「巻之 15 末に「琉球産物志拾五巻拾五冊 東京帝室博物館蔵本 昭和十年十二月二十日模写了 画 梅村徹 書 小和田勲石」とあり。「兼葭堂蔵書」ほか蔵書印の模写あり。CiNii による。